

授業概要

中世ヨーロッパの文書社会が形成された過程を「リテラシー」の観点から学ぶ。論証形式や簿記など、中世に生み出され、現代でも使用されている文書スタイルは多い。そこで授業内では具体例として年代記や文学作品、証書、裁判記録などさまざまな種類の文書を取り上げ、その記述内容に加え、背景にある社会文化についても考察する。作成者はなぜ特定の形式を採用したのか、それによって何を伝えようとしていたのか、読者は実際には何を読み取ったのか、一つの文書の読み方は時代によって変わるのか。これらの点を問うことで、文書の機能が社会の発展に合わせて細分化したことを理解し、現代社会における文書の役割を批判的に検証する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：リテラシーとは何か
第 2 回	メディアの役割：写本を作るとは
第 3 回	初期中世①：正統性と正当性の保証
第 4 回	初期中世②：カリスマ的人物と事績録
第 5 回	初期中世③：修道院と証書
第 6 回	盛期中世①：托鉢修道会と司牧文書
第 7 回	盛期中世②：列聖審問制度と奇蹟録
第 8 回	盛期中世③：聖人伝が描く政治と宗教
第 9 回	盛期中世④：幻視文学と地域社会
第 10 回	盛期中世⑤：医学の発展と医学書
第 11 回	盛期中世⑥：経済活動と文書
第 12 回	盛期中世⑦：異端と異端審問
第 13 回	後期中世①：「限界リテラシー」とは何か
第 14 回	後期中世②：ラテン語から俗語へ
第 15 回	後期中世③：印刷術の時代へ
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・多様な文書形態についてその成立と機能を教養の一環として理解し、適切な判断に基づいて文書形式や様式を使い分ける知識を身につける。
- ・専門知識を土台に思想的展開とその現実社会への影響を論理的に記述することができる。
- ・文書をメディアの一環として理解し、文化や社会を読み解く力を創造的に用いて人間の営みについて考察できる。

履修上の注意

高校レベルの世界史の知識を持っていることを前提として授業を進めるため、「西洋史概説」を履修済みであることが望ましい。また、授業内課題であるリアクション・ペーパー、学期末のレポートの両課題は必ず提出すること。

予習・復習

授業中に示すキーワードについては事前に下調べを行い、授業終了後は紹介した史料の見直しを行うこと。リアクション・ペーパーにあった質問は次週にフィードバックを行うため、その内容についても復習し、わからない箇所についてはできるだけ早く質問すること。

評価方法

試験と課題を総合的に評価する。割合は筆記試験 50%、レポート 30%、リアクション・ペーパー 20%とする。

テキスト

特に指定しない。参考文献については、適宜授業時間内に紹介する。